

## 平成29年度英語科海外ホームステイ研修報告 7月27日（木）

今朝のオーストラリアの気温は9度、寒さが身に沁める研修7日目の朝を迎えました。しかし、朝の送迎風景は心温まるシーンで満ちています。手を振りながら笑顔でファミリーに「行きます！」の挨拶をする生徒、幼いホストシスター・ブラザーと手を繋ぎながら仲良く登校する生徒など、それぞれが一步ずつ「家族」の仲間入りを果たしていると感じます。さて毎回確認している提出物ですが、今日も残念ながら数名の忘れ物があり、あと一步のところまで全員提出とは至りませんでした。

提出された日誌には、生徒たちの素直な気持ちが綴られています。今までは「〇〇して楽しかった。」など事実報告の内容が大半でしたが、研修も半ばを迎え生徒たちの心境に少しずつ変化が見え始めてきているようです。「時間の経過が速い。ファミリーともバディとも良い関係を築けてきているが、残された時間で自分ならまだまだできる。」「悔いを残さないよう、思いっきり行動したい。」という熱意や自分自身を高める言葉から、控えめだった彼らの中に確かに自主性と積極性が芽生え始めてきていることがわかります。また、「失敗してもいいと頭では分かっているけれど、まだできていない。」と、挑戦できない悔しい気持ちを伝えた生徒もいます。しかし、このままでは駄目だと気づいた時点で、生徒の成長は始まっています。このような生徒は過去の自分から脱却しようと必死にもがいている最中です。自分自身との葛藤に打ち勝ったとき、きっと素敵な笑顔を見せてくれることを確信しています。



今日も英語レッスンからプログラムがスタートし、日に日に「楽しい！」という声が増えてきました。特に生徒は、発音矯正の内容がお気に入りの様で、実際に声に出しながら、正しい発音を身につけていきます。恥ずかしがらずに声を出してみることが上達へのポイントです。また、日本の童謡「大きな栗の木の下で」などを英語に訳し発表する機会もありました。Joshua先生とPeta先生から“Don't be shy.”と何度も言われているように、この歌の発表の大きな目的の一つは、人前で発表する事に慣れ、プレゼンテーションスキルを身につけることです。「英語力の向上」はもちろん必要ですが、自分に自信を持ち、意見を堂々と発表する力を養う方が今の生徒たちにはより必要なのかもしれません。確固たる自信を得るためには、失敗しても何度も立ち上がり、小さな成功体験を積み重ねることが必要不可欠です。ここは「失敗体験」を奨励される環境ですので、恐れずに挑戦をどんどん自分を強くして行って欲しいと思います。



午後はスポーツデーということで、バレー、バスケットボール、卓球などの競技に分かれ、現地校の生徒と共に汗を流しました。小学生から高校生までの現地校生と中国からの留学生グループも一緒に参加し、年齢も国籍も異なる環境の中、郡高生は久しぶりに体を動かす事でリフレッシュした様子でした。ルールを確認したり、勝敗で一緒に喜びあったり、悔しがったりと時間と気持ちの共有を行うことで、また一步、友好が深まったようです。



明日は朝から見学研修に出かけます。オーストラリアの土地を実際に歩いて、見て、触れて沢山の事を吸収して欲しいと思います。